

第4章 まとめ

大分大学大学院教育学研究科（教職大学院） 教授 清國 祐二氏から多くの御指導と御助言をいただきながら本調査研究を進めてきた。調査の分析・考察の結果について、清國氏から次のような助言をいただいた。

- ・社会教育ではつながりづくりが重要視され、対面の方が優位だとみなされる傾向にある。活動が活発になったり、地域が活性化したり、地域の課題がみんなの協力によって解決していったりすることを地域のウェルビーイングと考えると、学びの成果に付随するつながりは重要である。そう受け止めれば力点は「つながりづくり」に置かれ、対面がクローズアップされる。
- ・一方で、個人の学びも重要であり、それにはオンラインの利便性が大きい。研修効果について、社会教育ではつながりづくりが着目されるが、実際には内容の定着があつてこそであるため、個人が知識的・技能的に豊かになることには大きな意味がある。
- ・これからの生涯学習・社会教育には、教育基本法に基づき、個人が要求する課題（個人の要望）と社会が必要とする課題（社会の要請）をバランス良く提供していくことが求められる。
- ・学習者の学ぶ目的を達成するために、どのような内容と方法を組み合わせるのがよいのかについて、ますます敏感になることが重要である。
- ・Society5.0 の時代において、アナログ的な感覚を失うことなく、デジタルを活用する必要がある。

第1章で、「オンラインでも対面での研修と同等の学習効果が得られるか」、「社会教育において重要な『人のつながりづくり』についての効果に違いはあるか」ということを課題として述べたが、清國氏から、『対面の方が優れている』という前提に偏ると、対面が伸びていかない。」という御指摘をいただいた。研修を計画するときに、対面型研修だからつながりがつくれると考えるのではなく、受講者が主体的に他の受講者や講師と関わりをつくる環境づくりや、受講者のもっている知識や経験をコミュニケーションによって引き出すようなはたらきかけをする必要があると考える。

対面型研修とオンライン型研修の学習効果等の比較及び清國氏からいただいた視点を基に、研修プログラムを計画・実施するときに以下のことを考慮することで、よりよい学びの提供ができるのではないかと考える。

まず、研修の受講方法を検討する際の視点を以下にまとめた。

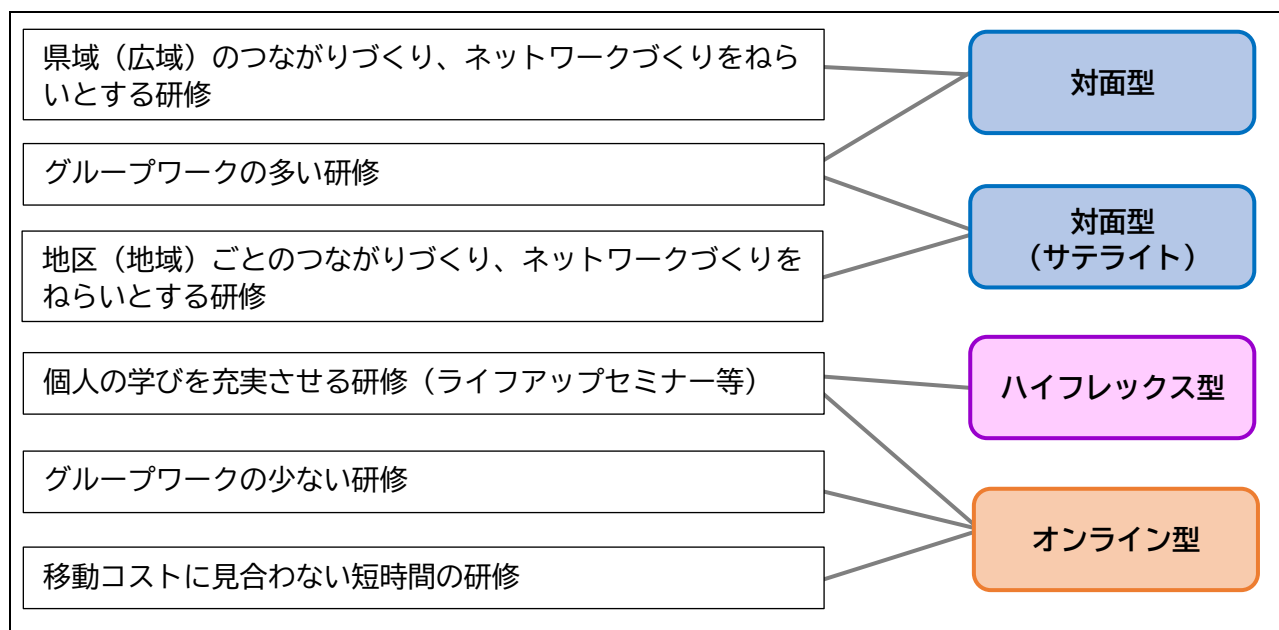


図15 受講方法検討の視点

次に、今後の研修の更なる充実に向けた取組として、以下の4点を示す。

受講者の負担軽減と学習効果のバランスを考慮した研修の工夫

① 対面型研修とオンライン型研修を組み合わせた研修プログラムの企画

- ・回数の多い連続研修の場合は、対面とオンラインを組み合わせることで、特に、会場までの移動にかかる受講者の負担を軽減させる。
- ・つながりづくり、ネットワークづくりをねらいとする研修については、対面で研修を行うようにする。

② 受講しやすく、満足度が高まるオンライン型研修の計画

- ・オンライン型研修受講の簡易マニュアルを作成し受講者に配付したり、受講者のオンライン会議システムの事前接続テストを実施したりすることで、オンライン型研修に対するハードルを下げる。
- ・見え方や音声の事前確認、受講者への資料の事前配付をすることで、資料の見にくさや音声の聞きにくさを解消する。
- ・チャット機能を活用したリアルタイムでの質問・意見の受付や、ブレイクアウトルームでの時間の提示などを行い、オンライン型の受講者が受講しやすい研修の進め方にする。
- ・受講者同士のコミュニケーションが図れる環境を準備する。

③ ハイフレックス型研修の充実

- ・対面型・オンライン型のどちらも充実した研修となるよう、研修内容、運営を工夫する。
- ・事前に、対面型・オンライン型両方の受講者がいることや、グループワーク等（回数、時間、グループの人数等）について講師と打合せを行い、運営計画に明記する。
- ・グループワーク等に入る前に、受講者に進め方や時間を伝えることで、ブレイクアウトルーム利用時の研修の受けにくさを解消し、対面型・オンライン型どちらの受講者も同じようにグループワーク等を進められるようにする。
- ・オンライン受講者の様子を講師が見られるようにすることで、講師とオンライン受講者のコミュニケーションを取りやすくする。（通信環境、受講人数によっては、オンライン受講者の画面をオフにしなければならない場合がある。）

④ サテライト会場の活用

- ・移動の負担を軽減させた対面型研修として、サテライト会場を設ける。
- ・地区（地域）ごとのつながりづくり、ネットワークづくりをねらいとする研修については、積極的にサテライト会場の設置を検討する。

これらのことから、当センター生涯学習部では、次年度の研修を次のように計画した。

表7 令和7年度栃木県総合教育センター生涯学習部の研修と開催方法（実施形態）等一覧

No	研修名	総日数	主研修の開催方法（実施形態）			備考
			対面	オンライン	ハイフレックス ※1	
1	女性の地域活動推進セミナー（女性教育指導者研修）	6	5	0	1	
2	家庭教育オピニオンリーダー研修	6	5	1	0	対面のうち、サテライト1
3	家庭教育支援プログラム指導者研修	5	4	1	0	対面のうち、サテライト1
4	地域へ飛び出せ！ボランティア実践セミナー	5	5	0	0	
5	コミュニティ・スクール推進研修（小・中）	3	2	1	0	
6	コミュニティ・スクール推進研修（高・特）	3	2	1	0	
7	地域学校協働活動推進員養成研修	4	3	1	0	
8	地域学校協働活動推進員パワーアップ講座	2	2	0	0	
9	地域づくりスキルアップセミナーⅠ	1	1	0	0	
10	地域づくりスキルアップセミナーⅡ	2	2	0	0	
11	家庭教育・子育て支援課題解決セミナー	1	0	0	1	
12	放課後活動指導者研修	3	3	0	0	対面のうち、サテライト1
13	生涯学習・社会教育関係職員研修	4	2	2	0	
14	人権教育指導者専門研修	5	4	1	0	
15	生涯学習・社会教育関係職員パワーアップ講座	2	1	1	0	
16	公民館職員スキルアップセミナー	1	1	0	0	
17	新任地域連携教員研修	1	0	1	0	オンライン半日、サテライト半日
18	地域連携教員研修	1	1	0	0	
19	16ミリ映写機技術指導者研修	1	1	0	0	
	合 計	56	44	10	2	

研修の統合、拡充等の見直しも図ったため、本年度の研修と単純には比較できないが、例えば、3の家庭教育支援プログラム指導者研修では、主に講話中心の研修をハイフレックスからオンラインのみの開催とした。また、サテライト会場での開催を設定することで受講しやすくなるとともに、学び直しをする研修修了者と研修受講者がつながりを作ることで、今後、新たな活動に取り組む契機になると考えた。

今後も、質問紙調査から明らかになった視点に沿って研修を見直し、内容の充実や方法の改善等を進め、研修に反映していくことで、『社会教育』を基盤とした、人づくり・つながりづくり・地域づくりの充実につなげていきたい。

最後に、本調査研究への御指導と御助言をいただいた清國氏に、心から感謝を申し上げ、調査研究の報告とさせていただきます。